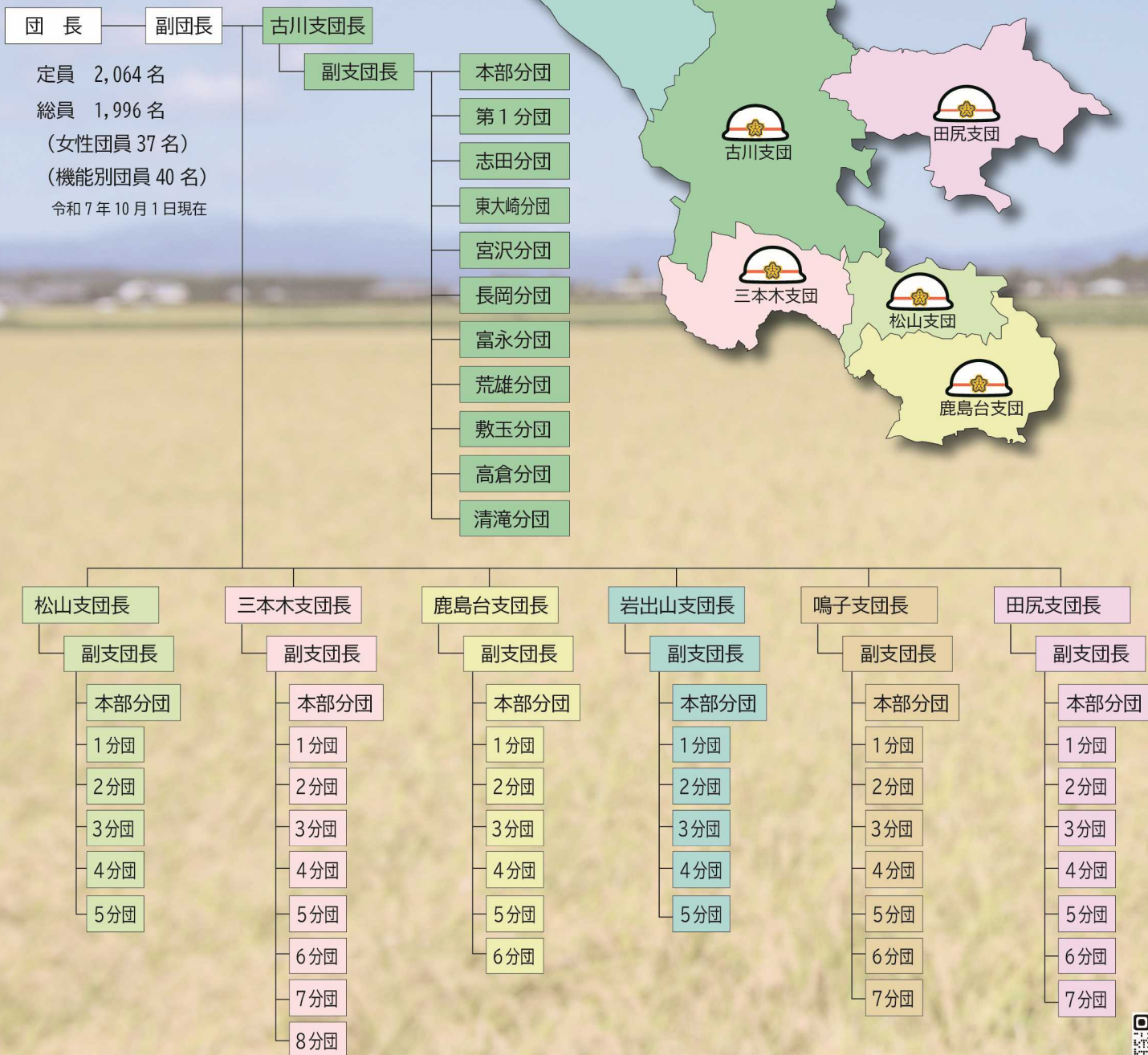


大崎市消防団の組織



大崎市消防団は、平成 18 年 3 月 31 日に古川市・松山市・三本木町・鹿島台町・岩出山町・鳴子町・田尻町の 7 つの消防団が合併して誕生しました。



問い合わせ 大崎市役所総務部防災安全課 電話 0229-23-5144



宝の都・大崎 We Are 消防団

消防団員募集中 入団資格

- ☑ 市内在住または通勤・通学の方
- ☑ 18 歳以上の方



宮城県大崎市

大崎市消防団古川支団
本部分団 佐々木菜摘さん

消防団とは？

- ◎消防団は、火災や事故、地震や風水害の大規模な災害時などに、地域住民の生命、身体、財産を守るという重要な役割を担っています。
- ◎消防本部や消防署と同じく、消防組織法という法律に基づき各市町村に設置されています。
- ◎地域の人達が仕事を持ちながら参加する「非常勤の地方公務員」となります。



消防団員になると

表彰制度	年額報酬・出勤報酬	退職報償金	階級
団員への表彰には、国や地方自治体が行う表彰式があり、様々な表彰が授与されます。 例) 勤続表彰等	条例に基づき、年額報酬・出勤報酬が支給されます。 例) 年額報酬 36,500円(団員) 災害出勤 8,000円(1日)	5年以上活動すると、退職時に退職報奨金が支給されます。 例) 在団5年の場合約20万円	活動期間等により階級も上がる形式が一般的です。 団員 班長 副分団長 分団長 副支団長 支団長 団長

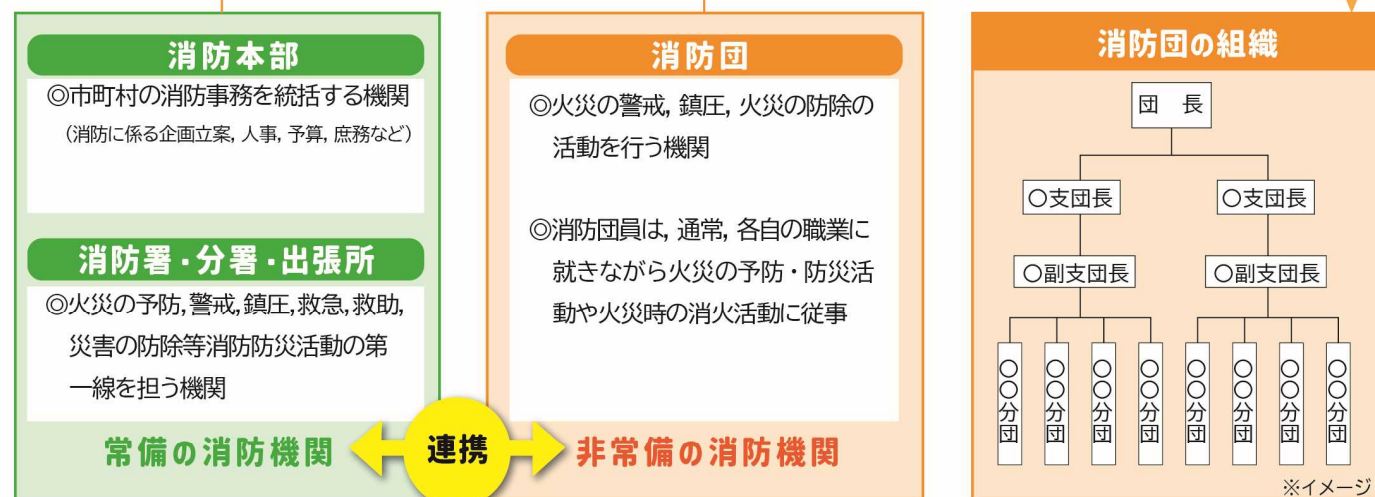
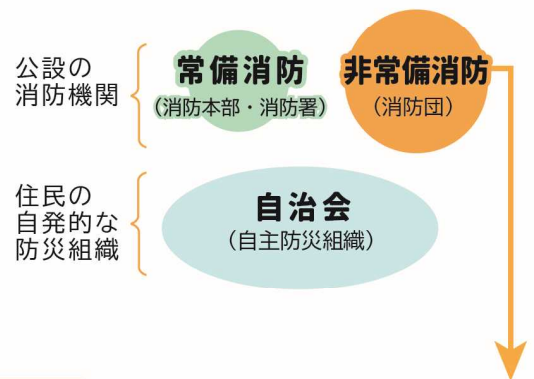
デジタル技術の活用

- ◎大崎市消防団ではデジタル技術「消防団 LINE 参集ツール」を活用した災害情報伝達網を構築して、迅速な消防団活動を実施しています。
- ◎災害を覚知した場合は、大崎消防本部の通信指令センターと連携して、各消防団員が所有するスマートフォンに大崎市公式 LINE を利用して伝達（災害種別・災害地点の住所・災害場所の地図）をしています。
- ◎災害情報の伝達は次の通りです。



消防士とは違うの？

- ◎消防業務全般を日夜（24時間）継続して勤務している消防士とは異なり、普段別々の仕事をしながら地域を守っています。
- ◎日夜専門的な災害対応訓練を実施している消防士とは別に、地域の実情や地理を把握している消防団は、消防士の活動支援や住民の避難誘導等の連携には重要な存在となっています。



主な年間行事（令和7年度）

消防団出初式



年始行事の一環として、1月初旬に来賓を招き出初式を実施します。式典では団長からの訓辞のほか、一斉放水など日頃の訓練の成果を市民の方々に披露しています。

火災予防運動



年2回、3月と11月に、地域の方々の火災予防思想の普及を図り、火災発生を予防するための広報活動や消防車両で地域の巡回を実施しています。

新入団員研修



5月頃、新入団員を対象に、災害現場で必要な「火災防ぎょ」や、消防団としての規律・節度を身に付けるための「訓練礼式」などについて研修を実施しています。

大崎市総合防災訓練



6月上旬、大規模震災等が発生した場合を想定し、各支団による災害対応能力と、住民や関係機関の連携を確認することを目的として、実践的な訓練を実施しています。

水防演習



6月下旬、過去の水害被害を教訓とした訓練は、地域を守る団員としての自覚を高め士気の高揚を図る機会でもあり、大規模災害時の備えとして実施しています。

消防団演習



10月中旬、地域の防災力を披露するため、通常点検・部隊訓練・ポンプ操法などを来賓を招いて実施し、消防団の指揮系統・使命感を展示しています。

消防団員からのメッセージ

大崎市役所職員（調整力）と消防団（現場力）の二刀流

古川支団
東大崎分団
五十嵐 亮さん

消防団は、平日頃から訓練で即応力・判断力を磨けること、地域行事や防災啓発活動を通じ、市民と顔の見える関係が築けることも大きな魅力です。
市職員としての調整力に現場力を掛け合わせ、平時の備えと有事の対応を両輪で強化し、市民の生命と暮らしを守るため、これからも積極的に消防団活動に取り組んでいきます。

気負わない

岩出山支団
第4分団
氏家 直子さん

女性消防団のポンプ操法大会の参加が消防団へ入団したきっかけでした。
そこから10数年、私の原点である地域に根ざしている団員として、ちゃんとやろうと思えば思うほど中途半端な気がしています。
そんな時に、女性団員の皆に助けられ、お互いのできることを補い合って、協力して、楽しく、消防団員を続けたいと思います。

消防・防災の知識を活かすために

古川支団本部分団
（学生消防団から女性消防団へ）
山本 麻由さん

出産後、保育の資格を取得するため宮城誠真短期大学に入学中、大崎市初の新学生消防団に入団しました。女性消防団員の皆さんと活動をともしながら、地域とのつながりに感銘を受け卒業と同時に女性団員として活躍しています。
仕事と育児のバランスがうまく取れるので、地域のために活動したい方は、是非入団してみてください。

自分にできる範囲で地域防災に協力したい

古川支団
第1分団
佐藤 将志さん

東日本大震災の経験から地域の防災に役に立ち協力したいと思い、入団を決めました。
防災啓蒙チラシの配布から、本格的な訓練など活動は、大変な時もありますが、充実した時間となっています。
入団したことで、普段関わることのなかった年代も性別も職業も、違う地域の方と交流を持てたことはとても良かったと思います。

消防団を通じて得た人との繋がりや地域を守る活動

古川支団
敷玉分団
手島 輝さん

入団当初は、知り合いが殆どなく、右も左もわからない状況だったのですが、先輩方が優しく声をかけてくれて、地域の方とも顔馴染みになることが出来ました。
近年は、台風や豪雨災害が増えているため「有事の際にはいち早く駆けつけて地域の安全を守る」消防団の活動に誇りを持ち日々精進していきたいです。

地域防災意識向上の啓蒙活動を進めたい

古川支団
志田分団
小林 磨依夢さん

私は、東日本大震災を中学1年生で、関東・東北豪雨を高校2年生で経験した中で、父は、いずれの災害でも消防団活躍していました。今は、部長である父とともに活動しています。
震災等の経験を生かし、地域の方々や消防団の先輩方と防災啓蒙と災害活動に力を注ぎたいと思います。